

新書評

民族生命力を支える賽夏学の構築 支持民族生命力的賽夏學建構

笠原政治 日本横濱國立大學教授

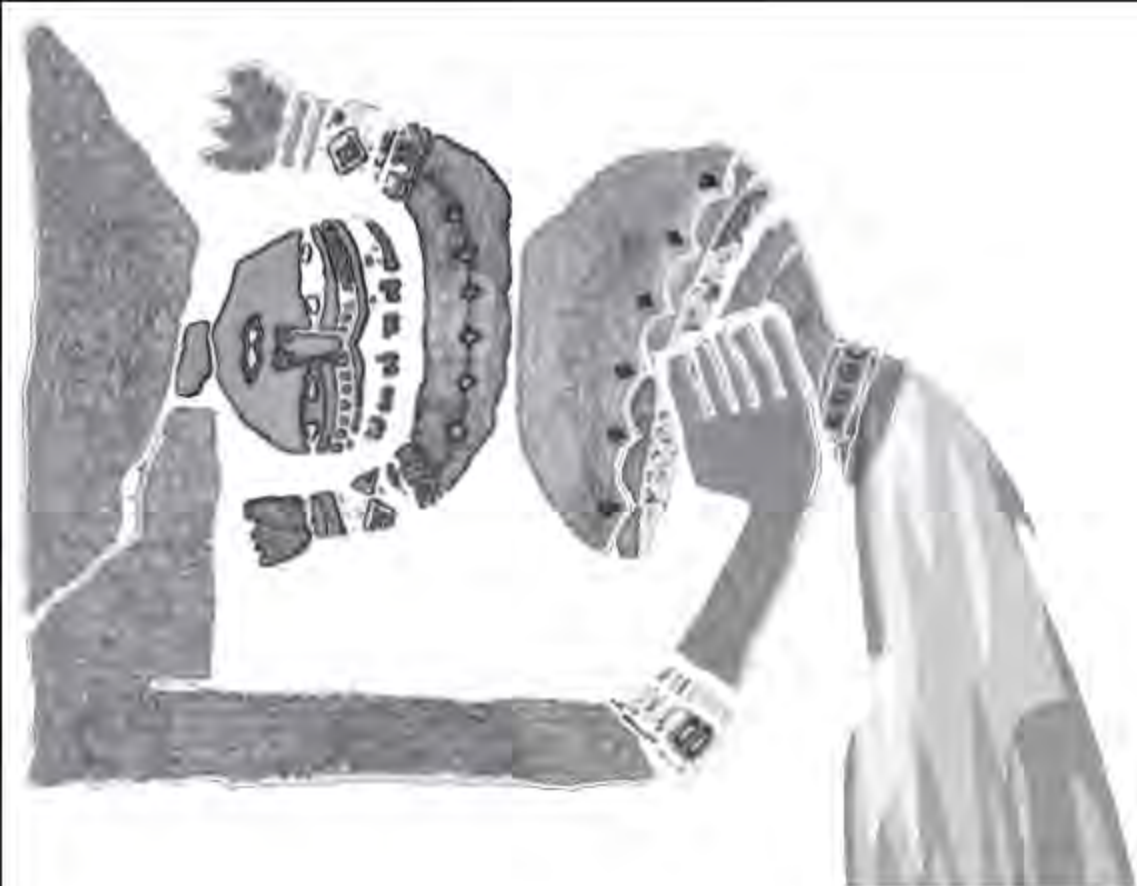
呂青華 翻譯

賽夏族の研究には特有な難しさがあるようだ。人口が少なく、しかも周囲に住む客家系漢族や泰雅族と長い期間にわたって複雑な交渉関係を維持してきたことが、理解を難しくしている大きな理由であろう。有名な矮靈祭（paSta'ay）を別にすると、この民族に独自の文化の特徴がなかなか掴みにくいことは否定できない。

譯 賽夏族的研究似乎有特別的難度。人口少，又與居住在周圍的客家漢族、泰雅族長期維持著複雜的交往關係，應該是導致不易了解的最大原因。有名的矮靈祭（paSta'ay）另當別論，不可否認的，這個民族特有的文化特徵實在難以掌握。

1998年に国民中学の教科書『認識臺灣』が作成された後、私はその《社會篇》の中で台湾原住民各族がどのように紹介されているのかを調べてみたことがある（注1）。当時認定されていた9族のうち、本文にも掲載された写真にもまったく登場してこないのはこの賽夏族だけであった。そのことも、文化的特徴の掴みにくさと関係しているのかもしれない。

譯 1998年國民中學的教科書《認識臺灣》編輯完成之後，我曾調查了《社會篇》當中如何介紹台灣原住民各族（註1）。當時被認定的9族當中，不論本文或刊載的照片中，唯一沒有出現的就是賽夏族。



『賽夏學概論』は、そのような賽夏族を対象にしてきた多様な研究の集成である。厚さが優に4センチを越えるこの浩瀚な論文選集からは、台湾の研究者、さらには日本人研究者の一部が、これまで実にさまざまな学術的関心に基づいて地道な研究を進めてきたことを改めて認識させられる。本書は、まちがいなく賽夏族の全体像に迫ろうとした初めての総合的研究書である。

譯 《賽夏學概論》正是以這樣的賽夏族為對象所作的多樣化研究集大成。從這本厚達4公分浩瀚的論文選集，我們重新認識了台灣的研究者以及部份日本人的研究者，其實早就基於各種學術上的關心，做了紮實的研究。本書正是要探求賽夏族全貌的第一本綜合性的研究書。

ここに収録されている40篇以上の論文は、2004年12月に苗栗縣南庄で開催された「賽夏學國際學術研討會」における発表原稿を中心にしながら、もっと広い範囲から集められており、また、1935年に出版された『台湾高砂族系統所屬の研究』（注2）の一部など、日本統治期の文献もいくつか中文訳したものが含まれている。中には難解な論文もないではないが、語言、神話、宗教といった各篇ごとに詞條・解説を加えた丁寧な編集がなされているので、読者が各論文の趣旨を読み誤ることはあるまい。

譯 本書収録40篇以上の論文，以2004年12月在苗栗縣南庄舉辦的「賽夏學國際學術研討會」所發表的稿子為主，同時擴大網羅收集範圍，其中還包括了1935年出版的《台灣高砂族系統所屬研究》（註2）的部份等，幾篇日本統治時期的文獻中譯論文。其中雖不乏困難不易閱讀的論文，但是語言神話宗教各篇都加註有詞條解説，有如此貼心的編輯，讀者不至於會誤讀論文的主旨重點。

本書の書名は、「賽夏族研究」ではなく、「賽夏学」とされている。この両者の違いは重要な点であろう。林修澈教授をはじめとする編集者の意図は、アカデミズムの専門家による研究にとどまらず、賽夏族の人々自身が手がけてきた研究も包み込んだ知的世界を



構築することにあると思われる。実際、ここには賽夏族の知識人が書いた論文も何篇か収録されているのである。名称としての「賽夏学」には、そのような新しい学術研究を創出することによって賽夏族の「民族生命力」を支えていく、という積極的な意味が込められているのであろう。

譯 本書の書名不是「賽夏族研究」而是「賽夏學」。兩者的差異正是重點所在。以林修澈教授為首的編輯群他們的意圖在於：學術領域的專家學者所做的研究，與賽夏族本民族的人所做的研究兼容並蓄，共同構築一個知識世界。事實上，本書也的確收錄了幾篇賽夏族的知識份子所撰寫的論文。「賽夏學」的這個名稱含有一種積極的意義，那就是藉由創造出新的學術研究來支持賽夏族的「民族生命力」。

日本にも、例えば沖縄学、アイヌ学など、これとよく似た研究の伝統がある。そして、そのような伝統からは、それぞれ多くの優れた研究が生み出されてきた。

譯 在日本也有類似的研究傳統，如沖繩學、愛伊努學等。而且從這樣的傳統也都分別孕育出許多優秀的研究成果。

本書を出版する機縁となった2004年の国際学術研討会に、私は参加することができなかった。かえすがえす残念だったと思うのである

譯 本人無緣參加促成本書出版的2004年的國際學術研討會，深感惋惜不已。

- 註**
- 1 笠原政治 2001 「『認識臺灣』の台湾原住民に関する記述」（『認識臺灣』的台灣原住民相關記述）『台湾原住民研究』5
 - 2 移川子之藏・宮本延人・馬淵東一 1935『台湾高砂族系統所屬の研究』（台湾高砂族系統所屬的研究）刀江書院



▲『台湾原住民研究』5号